Architectural Institute of Japan

5283

日本建築学会大会学術講演梗概集
(関　東)　1993　年　9　月

正会員 ○　佐藤　洋一[*1]
同　　友清　貴和[*2]

コミュニティに関する独居高齢者の生活実態について

―― 高齢者が自立できる社会形成に関する研究　その２ ――

１．はじめに

前編に引き続き，本編ではコミュニティに関する独居高齢者の生活実態について分析する．

２，調査結果の分析と考察

２－１，隣人との関係について

都心ほど隣人を親しいと答えた人は少なく，〈隣人関係〉は希薄になっている．

また年齢階級別にみると，独居高齢者は高齢ほど隣人とは親しい付き合いとなり，〈隣人関係〉において積極的になっている．【図１】

２－２，友人との関係について

親しい友人の数をみてみると，都心及び都心周辺部の２０％以上の人がいないと答えている．しかしこれらの地区の平均友人数は，友人がいないと答えた人がいなかった周縁部の平均友人数よりも多い．【図２】

性別でみると，女性の平均友人数は２．２７人で男性の０．８５人をはるかに上回っており，女性の方が友人作りには積極的だといえる．

次に友人数と集会への参加状況とをクロスさせてみてみると，老人会のみ参加している人の平均友人数は，不参加と答えた人の平均友人数とほぼ同じである．これらに比べ，老人会以外の趣味活動の集会だけに参加している人の平均友人数は多いことがわかる．【図３】

よって先の〈隣人関係〉とあわせて独居高齢者の友人関係を考えてみると，独居高齢者の友人関係は〈隣人関係〉とはほぼ無関係であり，さらにいえば独居高齢者は〈同じ地域活動の友人〉よりも，〈同じ趣味活動の友人〉の方をより親しく感じているのではないだろうか．

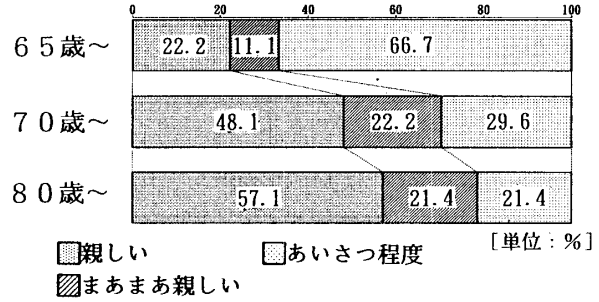
２－３．集会への参加状況について

集会への参加状況をみると，都心ほど集会に参加していない人が多い．

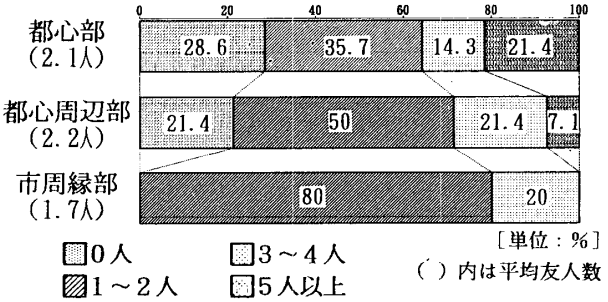
また参加している人の内容をみると非－都心部では大半が老人会のみの参加であるのに対し，都心部では老人会以外の宗教あるいは趣味に関する集会にも積極的に参加している．

年齢階級別にみると，年齢層に関係なく２０％前後の人が不参加である．また高齢になるほど宗教あるいは趣味に関する集会のみ参加すると答えた人が少ないこともわかる．【図４】

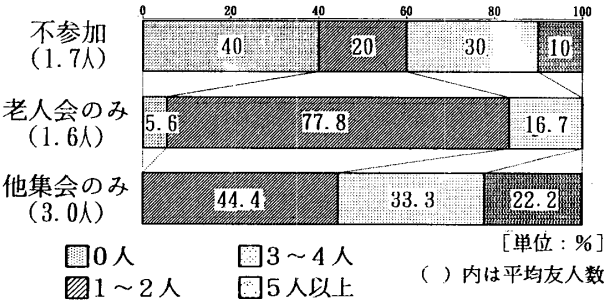
性別では男性の４２．９％の人が不参加であり，女性の１５．６％を大きく上回り，集会への参加に関しては男性の方が女性より消極的である．



【図１】年齢階級別にみる隣人との関係



【図２】地域別にみる友人数及び平均友人数



【図３】集会の参加状況にみる友人数及び平均友人数

A study on the life circumstance of old person
at living alone relative to community
A study on the forming society for old person
can stand on his own feet No.2

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

２－４．独居である理由について

独居である理由について調査し，独居高齢者の独居に対する考えをみた結果，回答は大きく３つに分類でき，個人の積極的な意志による独居を〈積極的独居〉，親族に迷惑をかけたくないという理由からの独居を〈消極的独居〉，守るべきものがあるための独居を〈保守的独居〉とした．【前編その１，表３参照】

都心ほど〈積極的独居〉であり，これには都心ほど〈積極的独居〉を支援し得る体制が整っていることが考えられる．【図５】また子供との対面周期でみると，対面周期が短いほど独居高齢者は〈積極的独居〉である．このことから子供との距離が近いということが独居高齢者を〈積極的独居〉にさせている要因の一つだと考えられる．さらに親しい友人数をみると，〈積極的独居〉である人ほど友人数も多い．

次に非－都心部ほど〈消極的独居〉であり，都心部ほど積極的になれないのは非－都心部ほど〈守るべきもの〉が多く存在している事が考えられる．【図５】また集会への参加状況をみると，不参加と答えた人のほとんどが〈消極的独居〉であった．

〈守るべきもの〉のある人の友人数は最も少なかった．もちろん家や墓を守ることがこの直接的な理由であるとはいわないが，意識的なものとしてどこかで高齢者の生活を抑圧しているのではないだろうか．

２－５．趣味・生きがいについて

趣味・生きがいに関してみると，地域，年齢，性別に関係なくほぼ９０％の人が趣味・生きがいをもっている．

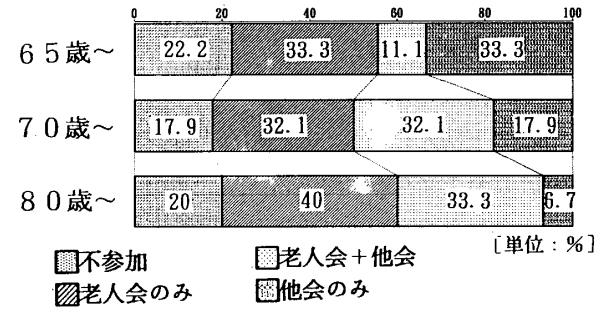
ここで男性はペットの飼育を趣味・生きがいとしている人の割合が多いのに対し，女性は宗教あるいは趣味に関する集会への参加を趣味・生きがいとしている人の割合が多いことが分かる．【図６】

つまり先の〈集会への参加状況〉とかさねて考えると，男性は自宅内で趣味活動を行う傾向が強く，女性においては都心及び都心周辺部の人では自宅外趣味活動，周縁部の人では自宅外地域活動を行う傾向が強いのではないだろうか．

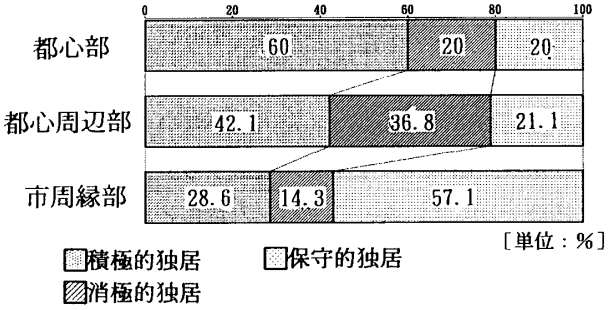
またさらに何か趣味・生きがいをもちたいかという質問に対して，男性は全員が現状のままでよいと答えたのに対し，女性の６０％が何かをもちたいと答えた．

このことから女性は男性より積極的に趣味・生きがいを求めていることが分かる反面，現状の趣味・生きがいに関して不満を感じていることも考えられる．

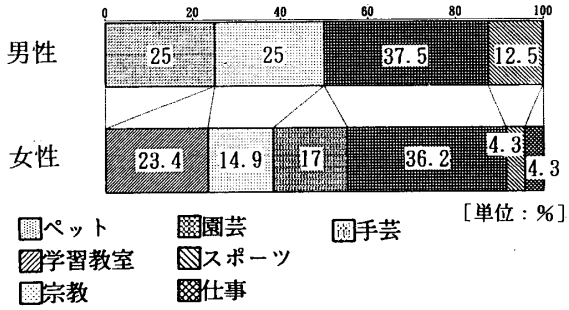
そこでもちたいがもてないと回答した人にその理由を尋ねたところ，年齢に関係なく大半が身体的理由を挙げている．また周縁部では近郊にそうした場所がないと答えた人が多いこともわかった．



【図４】年齢階級別にみる集会への参加状況



【図５】地域別にみる独居である理由



【図６】性別にみる趣味・生きがい

３．まとめ

以上の分析によって，鹿児島市という特徴的な地域において，コミュニティに関する独居高齢者の生活実態が把握できた．そこには独居高齢者がコミュニティに対して積極的になれる内部因子，また消極的になってしまう内部因子が存在していた．今後それらの内部因子の〈メカニズム〉をより詳細に把握・分析し，〈高齢者が自立できる社会形成〉にいかしていかなければならない．

＊１鹿児島大学大学院　＊２鹿児島大学助教授・工博

NII-Electronic Library Service